

「平和への祈り」にご参加の皆様、本日は、大変お疲れ様です。

この催しが、戦後七十年及び非核平和都市宣言三十周年を記念して設置しました記念銘板の前で開催されますことは、大変意義深いことと考えております。

現在、国際情勢は非常に不安定な状況にあります。ウクライナやガザといったこれまで戦闘が起こっていた地域に加えて、中東における、イラン、アメリカ、イスラエルを巡る状況も、停戦が報じられはしましたが、依然として不安定な側面を抱えています。そのような中で、ますます国際社会の協調と対話の必要性・重要性が高まっていると考えています。

戦後八十年という大きな節目を迎える本年、八月七日より長崎市で開催される第十一回平和首長会議被爆八十周年記念総会に、私自身も参加予定です。平和首長会議加盟都市とともに、戦争を知らない世代に、戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えていく取り組みについて改めて考え、国内外に発信していきたいと考えています。

また、本年は一九八五年に芦屋市議会で決議した「非核平和都市宣言」から四十周年を迎える年でもあります。八月二十三日にはルネサンスクラシックス芦屋ルナ・ホールにて、戦後八十年及び非核平和都市宣言四十周年記念「あしや平和の集い」を実施いたします。これらの取り組みを通して、戦争の記憶を風化させることなく、未来世代へ平和の思いを継承してまいります。

平和は誰かが勝手に築いてくれるものではないと思います。だからこそ、改めて私たちにできる行動を積み重ねる、世界平和への想いを世界に発信する一年にしたいと考えています。一人の力は微力でも、無力ではありません。せん。国際情勢が不安定ないまこそ、ともに、行動し続けましょう。

令和七年八月二日

芦屋市長 高島 峻輔